

第1回

和寒町

ふくしのまちづくり
町民サミット

みんなで福祉を考えよう！

ひとり一人の関わりがこのまちのふくしを形づくりま

日時：令和5年6月18日(日) 13:30～16:30(開場 12:30)

場所：和寒町公民館「恵み野ホール」

入場無料

●参加方法

サミットに参加を希望される方は、6月16日(金)までに和寒町保健福祉センター(TEL.32-2000、または右記QRコード)へご連絡ください。



注意事項：感染症拡大防止のため、参加者はマスク着用にご協力をお願いします。

※当日の様子を後日動画配信いたします。動画をご希望の方は kikaku@yu-yu.or.jp までご連絡ください。

主催：和寒町

問合せ：保健福祉課ふくしのまちづくり推進担当 TEL.32-2000

第1回 和寒町 ふくしのまちづくり町民サミット

プログラム

第一部：13:30～15:00

1 主催者挨拶

和寒町長 奥山 盛

2 事業説明「和寒町ふくしのまちづくりプロジェクト」について

事業受託者：大原 裕介 (社会福祉法人ゆうゆう 理事長 / 北海道医療大学 客員教授)

金野 千恵 (建築家 teco 主宰 / 京都工芸繊維大学 特任准教授)

3 講演「和寒町ふくしのまちづくりプロジェクトの意義と価値」



講師：野澤 和弘 氏 (植草学園大学副学長、元毎日新聞論説委員)

1983年早稲田大学法学部卒業、毎日新聞入社。東京本社 社会部で、いじめ、ひきこもり、児童虐待、障害者虐待などに取り組む。夕刊編集 部長、論説委員などを歴任。現在は一般社団法人スローコミュニケーション代表として障害者や外国人にやさしい日本語の研究と普及に努める。植草学園大学副学長、東京大学「障害者のリアルに迫るゼミ」顧問 (非常勤講師)、毎日新聞客員編集委員、社会保障審議会障害者部会委員など。

4 対談「福祉×建築×地域」～神奈川県愛川町春日台センターセンターの実践から～

馬場 拓也 氏 (社会福祉法人愛川舜寿会 常務理事)

1976年神奈川県生まれ。日本社会事業大学大学院福祉マネジメント修士課程修了。2010年、現法人に参画。16年、特養「ミノワホーム」の庭を地域に開放。19年、障がいのあるなしによらず0～18歳が一緒に過ごす保育園「カミヤト凸凹保育園」を開園。22年、地域共生文化拠点「春日台センターセンター」を開設。共著に「わたしの身体はままならない (河出書房新社)」「壁を壊すケア (岩波書店)」ほか



金野 千恵 氏 (建築家 teco 主宰 / 京都工芸繊維大学 特任准教授)



2011年東京工業大学院博士課程修了、博士(工学)。2015年 teco 設立。2021年より京都工芸繊維大学特任准教授。住宅や福祉施設の設計、まちづくり、アートインスタレーションなどを手掛け、仕組みや制度を横断する空間づくりを試みている。主な作品に『向陽ロジックハウス』(平成24年東京建築士会住宅建築賞)、ヴェネチアビエンナーレ2016 日本館(審査員特別表彰)、『春日台センターセンター』(2023年日本建築学会賞(作品))など。



©morinakayasuki



第二部：15:15～16:30

住民参加型ワークショップ「みんなで和寒町をデザインする」

講師を交え参加している皆さんとこれからのまちについて話し合います！

ファシリテーター (ふくしのまちづくりアドバイザー)：

堀田 聡子 氏 (慶應義塾大学大学院 教授)



京都大学法学部卒業後、東京大学社会科学研究所特任准教授、ユトレヒト大学訪問教授等を経て慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授。博士 (国際公共政策)。認知症未来共創ハブ代表。人とまちづくり研究所代表理事。社会保障審議会・介護給付費分科会及び福祉部会、政策評価審議会、地域包括ケア研究会、地域共生社会研究会等において委員を務める。日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー2015リーダー部門入賞。

田中 伸弥 氏 (社会福祉法人ライフの学校 理事長)



1981年秋田県生まれ。仙台大学体育学部健康福祉学科卒。大学卒業後、社会福祉法人経営の介護老人保健施設で介護主任を3年半、医療法人社団経営の病院併設の老健、デイケア等で相談員等を経験したのち、2011年に現法人の特養施設長に就任。2013年同法人常務理事 兼 施設長に就任し、2019年6月より社会福祉法人ライフの学校理事長 兼 統括施設長。宮城県仙台市にて地域密着型特別養護老人ホームや看護小規模多機能型居宅介護などを経営・運営。